

## 新潟県納税貯蓄組合総連合会長賞 優秀

# 税金は何を守るか

長岡市立三島中学校

三年 齋藤 姫佳

「ありがとねえ。」

私が描いた似顔絵を大事そうに持って、そのご老人は優しい声でそう言った。私の税に対する考え方が変わったのは、この時だったと思う。

私のような子供が税金を支払う時は、友人と遊びに出かけた時や好きな物を購入する時くらいだろう。だから、あまり税金については詳しくはない。分かっていたのは、父や母が努力の結果である給料を、一部国に納めているということだけだった。好きなことを好きなだけしていた子供としては、税については肯定的ではなかった。

考え方が変わらないまま、私は職場体験のため、介護福祉施設に来ていた。当時の私は中学二年生だった。設備が完璧に整っており、栄養豊富な食事もしっかりと用意されている。利用者さんは不自由なく笑顔で過ごしていた。大型テーマパークやその他娯楽施設、スタジアムや発電所などが建設されるのに税金が関わっていたことは知っていた。国は大きな借金を抱えているのに何故、とも思っていた。当たり前のようにある福祉施設

設は税金で建てられていると、介護福祉士さんの話を聞いて初めて知った。利用者さんが安心をして暮らせる施設や設備、サービスがあるのは、国民が納めている税金があるから。笑顔で会話を交わす利用者さんを見て、今まで他人事のように思っていた税の存在が、とても身近に感じたのだ。

税金は命を救っている。利用者さんが安全な環境で不自由なく過ごしているのは税金のおかげだ。おやつのゼリーを楽しみにしたり、似顔絵を貰って喜べたり、ささいなことでも幸せを感じられる。税金がなければできなかったことだと思う。福祉施設に限った話ではない。事故を防ぐための装置や学校の建設、科学技術の進歩など、税金は私たちの生活を守るために使われている。国民一人一人が国を支え、多くの命が救われている。

税金の大きさに気が付けたが、私のような子供に出来ることは少ないだろう。だから、国の未来を背負う国民として、今の生活ができていることに感謝をし、社会に貢献していくことが大事だ。授業を受けて学びを深め、家族と平和に過ごし、柔らかな布団で眠り、誰かを愛し、幼い頃から目指していた職に就く。税金の存在が私たちにそんな人生を与えてくれる。私もいつか税金を納める時が来る。その時は、平和な生活が続くように祈って、感謝を持ち納めようと思う。税金で一人でも多くの命が救われてほしい。その気持ちを忘れずに大人になっていきたい。